

人は何によって輝くのか

——人を突き動かすもの——

神渡良平

1 脳梗塞 闘病生活 転機

天の導きはいいことだけではなく、一見悪いことのように見えることも含めて天の導きだ。決して悪いようにはならない。全部感謝して受けて立つ。私はここから出発するのだ。

2 現状を認めると、驚くべき力が発揮される！

・私が「沈黙の響き」の重要性に気づいたのは、38歳のとき、脳梗塞で倒れ、救急車で病院に運ばれ、一命は取り留めたものの、寝たきりになったときだった。気落ちして沈み込み、「おれはついていない。これからどうなっていくんだ……」と暗澹としているとき、その暗澹の向こうから、声が聴こえてきた。

・「**やっと出発点にたどり着いたね。これから本当の世界が見えてくるよ**」
「えっ、出発点？ みじめな終着点ではないのか？ この先、何があるというのだ？」
「これまではただ**がむしゃらに走り回っていたけど、これからは存在しているものの“意味”が見えてくる。元気いっぱいときは気づくことさえなかった“沈黙の響き”**が多くのことを語ってくれるよ」

「沈黙の響き？ 何それ？ 沈黙は虚無ではないの？ 無音の闇ではないの？」
「**いやいや、虚無ではない。逆にあらゆることが“存在することの意味”が開陳されるよ。それがわかったら、うれしくて、楽しくて、ありがたくて、転げまわりたくなるほどだ**」

「……」

・そして私の目から少しずつベールが剥がれ落ちていった。“沈黙の響き”に耳を傾けると、物事の本質である“意味”について開陳しだした。それは自分が元気で走り回っていたときには、まったく見えなかった事柄だった。

・人間は落ち込みを過ぎると、必ず立ち直ろうとする。必ず前向きの力が動き出す。本当の力量が発揮され始めるのだ。

・『安岡正篤の世界』（1991年 30年前 43歳）ベストセラー それ以来 70 数冊書いてきた

3 徳永康起先生の生き方——問題を抱えている子どものつかえ棒になりたい！

A 多感な女生徒を襲った悲しい出来事

この世で一番

サトウハチロー

この世で一番美しい名前／それはおかあさん

この世で一番やさしい心／それはおかあさん

おかあさん／おかあさん／悲しく愉しく、また愉しく

なんどもくりかえす／ああ、おかあさん

「先生、私はどうしたらいいんですか」

父母が離婚。私は母に捨てられた。その母が再婚し、しかも近くに住んで、赤ちゃんが生まれた。私はどうしたらいいか、わからなくなった。

先生は絶句！ たただだ耳を傾け、彼女の哀しみを分かち合うだけだった。

「負けるなよ。投げ出すなよ。ふて腐れるなよ。寂しくなったら、先生とここに遊びに来い」

徳永学級のモットー「自分を育てるのは自分である」

人を責めない。自分の責任を自覚する。

リンリン

坂村真民

燐火のように／リンリンと／燃えていなければならない

鈴虫のように／リンリンと／訴えていなければならない

禅僧のように／リンリンと／鍛えていなければならない

梅花のように／リンリンと／冴えていなければならない

それから2年後、高校に進学するとき、奇跡が起きた。

「先生！ 母が……、母が、高校の入学式に来てくれました。何ということでしょう。ただただ感謝するばかりです」

B 学級担任としてどこまでも寄り添っていたい

校長になって学校経営にかかわり、子どもたちから離れてしまうのか辛い。

校長から学級担任ができる一教師へ。

「子どもたちの家庭はさまざまです。まだ自立できない子どもが必死に耐えている。誰かがそういう子どもの支えにならなきゃいけない。

教師は白墨で何かを黒板に書いて教えているだけでは済まないのです。私は問題を抱えた子どもを独りぼっちにはおけない。彼らの相談相手になり、つか

い棒の役割を果たしたい。人生の伴走者でありたいのです」

C 日記によって個々の生徒と交流

- ・免田村の免田小学校。田中保君 母子家庭 中卒で就職 家の稼ぎ手 病気 昏睡状態 お見舞いに行くと目を覚まして先生にしがみついて泣いた。死後、彼の机の引き出しから「徳永先生手跡」と書いた大学ノートが出てきた。徳永先生が赤ペンで保君にコメントを書いたものが切り取られて貼り付けてあった！
- ・日記は先生と生徒をつなぐ、かけがえのない橋だ。

D 炭焼きの子を立ち直らせる

- ・宿直室で柴藤清次君を抱いて寝た。小学校四年生のときから木炭を詰めた俵を馬に積んで、宮崎県の米良の荘まで運んでいたのだから、勉強する時間などなかったのだ。
- ・戦争に従軍し、シベリヤ抑留。
- ・伊万里自動車学校の優秀な教官
- ・警察も見捨てたワルたちを同居させる。俺みたいな人間でも立ち直れたんだ。お前たちだって再起できる。
- ・伊万里青少年問題協議会が表彰し、新聞で報道された。それが契機で、32年ぶりの再会！ 賞品のガラスの壺を徳永先生に贈呈した。

4 兄の徳永寮長 瀬戸内寮で100 発往復ビンタのお仕置きを受ける

・昭和16年、救世軍の瀬戸内寮で、正月の飾り餅を食べるといふ事件が起きた。兄の徳永寮長は寮生のお仕置きをして、秩序を回復しようと、100発往復ビンタを食らわせることにした。それを実行しようとした瞬間、イエスの悲しみの声が聴こえた。

「人の非を責めるのは私のやり方ではありません。寮長の私が至らなかったで、この不祥事が起きた。責められるべきは責任者である私自身だ。みんなにお詫びしなければいけないのは寮長です……」

・徳永寮長は急遽、処罰の対象を首謀者から自分へと変え、自分に100発往復ビンタを食らわせるようにとみんなに命ずる。涙ながらの制裁が始まった。往復ビンタが続き、唇が切れ、血反吐をはいた。勘弁してください。もうしません。これ以上、寮長を殴ることはできません。どうか許してくださいと、骨の髄まで反省がしみわたった。

- ・兄から顛末の一部始終を聞いた徳永先生は、教育の根幹にそれを据えた。

5 『下坐に生きる』に山下泰裕監督が見せた反応

『下坐に生きる』（平成9年刊 24年前に出版）超ロングセラー
読売新聞での書評「私が推薦するこの一冊」

A 「尊いのは足の裏である」

尊いのは頭でなく／手でなく／足の裏である

一生人に知られず／一息たない処と接し

黙々としてその努めを果たしてゆく

足の裏が教えるもの／しんみんよ

足の裏的な仕事をし／足の裏的な人間になれ

頭から光が出る／まだまだだめ／額から光が出る／まだまだいかん

足の裏から光が出る／そのような方こそ／本当に偉い人である

B 徳永先生、東井先生の足を揉む

「何もしてあげることができなくてすみません」／ポツリとそんなことをいう妻
 ／「何にもしてあげることができなくてすまん」のはこっちだ／何もかも、着るものから、食べる物から／パンツの洗濯までしてもらって／しかも妻に「すみません」と言われるまで／「すまんなのはこっちだ」ということさえ／気がつかないでいた／
 こっちこそ／ほんとにすまん

6 斎藤智也聖光学院監督との出会い

・甲子園出場 春夏 21 回 そのうち 5 回はベスト 8 進出

日大東北高校と学法石川高校の 2 強の時代が続いた。創部して 37 年、2 強に勝てず、悔し涙。

『安岡正篤 人生を拓く』(講談社+α新書)

脳梗塞で倒れる お礼参り 四国 88 カ所札所の遍路 全行程 1400 キロメートル
 36 日間行脚

「人生に起きるいかなる出来事も、その人をつぶそうとして起きるのではない。目を覚まさせ、覚悟を与えて、持っている能力を花開かせるために起こる。そのことがわかると、どんなことでも受けて立とうという心境になってくる。そこから不動心が芽生えてくる」

「自分が求めていたものはこれだ！ 不動心とは何かということが今一つはっきりせず、もやもやしていたが、これでやっていける」(斎藤監督)

バックネットに「不動心」と大書した大幕を掲げた。

・私は落ちこぼれだった！ でもそれが見事に生きた！ 落ちこぼれでよかった！

・大学中退 世の中に出る 生きていくのが厳しかった 脳梗塞で倒れる 寝た切り解雇 給料が入らない ペンとメス ペンで立とう アルバイトで生活費を稼いで、

一日のメインの時間は執筆に費やす 柴又の帝釈天 破魔矢販売 的屋 東京富士大学 下村博文文科相大臣（現政調会長）理事 教授 高卒で元的屋の大学教授 70 数冊の出版：同じ境遇で立ち往生している人々が励まされ、「よーし、俺も頑張ろう。ここで負けないぞ」。本が売れるから、出版社はまた執筆を依頼してくる。

「私でさえやれたんだから、君らも大丈夫だよ」 テキ屋の大学教授

・斎藤監督も落ちこぼれだった！

・福島県一の進学校といえば福島高校 斎藤さんはその福島高校 野球部キャプテン 福島高校から目指す体育学部 〈国立〉筑波大学、福島大学 〈私立〉早稲田大学、日本体育大学 受験失敗 再挑戦 また不合格 不本意ながらある私立大学 小馬鹿にしていたはずの級友 野性味やバイタリティがあった ちっぽけなプライドが砕け散った

・昭和 62 年（1987）3 月、聖光学院高校に赴任 自分が荒れていた頃と同じ姿を高校生たちの中に見た おれはここに来るはずじゃなかったとふて腐れ、しょげていた

・「自分は小さなプライドにこだわって、ふて腐れて、突っ張っていた。コンプレックスの固まりだった。だから空回りして、大事な青春を浪費していた。なあみんな、県立に落ちたことを ^{いきぎよ}潔く受け止める。これから実績を積んで、コンプレックスをはねのけるんだ。くよくよするな。人生は決まってしまったんじゃない、これからだぞ」

・同じことが野球部にも言えた。中学野球で抜きんでた選手は、特待生として強豪高校へ 負け犬根性

・負け犬根性を克服するには：それを認めよう。俺の出発点はここだと認めよう——
認めると肩の力が抜け、本来の力が発揮できる

・諦めない！ 斎藤監督の負けじ魂

・『疾風に勁草を知る』（安岡正篤）

すべてをなぎ倒してしまうような激しい風が吹いてはじめて、そんな烈風にも吹き飛ばされない強い草を見分けることができる。困難や試練に直面したとき、はじめでその人の意志の強さや節操の固さ、志の高さ、人間としての値打ちがわかる。

・同じ目標を持って戦う仲間がいる！

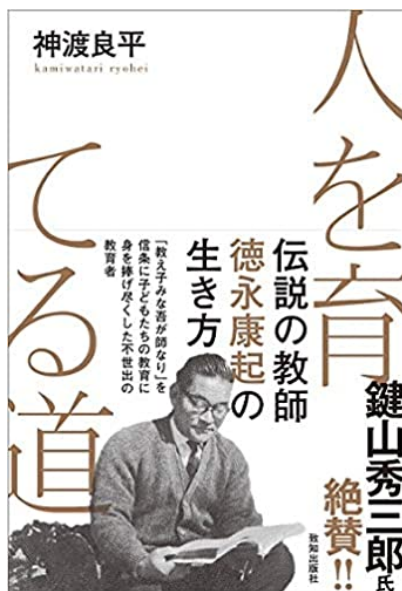
7 結語

■事務局からのお祝い■

今年の3月、致知出版社から上梓された『人を育てる道 伝説の教師徳永康起の生き方』（税込み1760円）をお近くの書店もしくはネット通販でご購入いただけませんか？
何卒、よろしくお祝いいたします。

人を育てる道（伝説の教師 徳永康起の生き方）

著者：神渡良平先生



以下はアマゾンの紹介文です。

イエローハット創業者・鍵山秀三郎氏も感動!!

「この書は私たちに一番必要とされていることは何かを、気づかせてくれます」

国民教育の師父・森信三師をして「超凡破格の教育者」と称された徳永康起先生。

三十代の若さで小学校の校長に就任するも「教員の仕事は、教壇に立って教えることだ」という信念から自ら一教師に戻り、子供たちの教育にその身を捧げ尽くしました。

本書は、“伝説の教師”とも呼ばれる氏の生き方や教育の原点に迫るのみならず、数々の実話を通して「人を育てる極意」が示されています。特に印象的なのは、“炭焼きの子”と同級生から馬鹿にされた柴藤清次さんの話。

家が貧しく、ろくに学校に通えなかったという彼に、徳永先生は「おい、清次君。今夜、宿直室に來い。親代わりに、俺が抱いて寝よう」と声をかけます。このことを転機に柴藤さんは自らを変え、自動車学校の優秀な教官となりました。

他にも、授業で使用する切り出しナイフを同級生から盗んだ生徒の話では、先生自ら新しいナイフを買い、盗まれた子の机にこっそり戻しておく。盗んだ生徒は自分を責めない先生を、

目に涙をためてじっと見つめていた、という話も明かされています。

いかにその人の人間的価値を引き出し、心に灯を灯し続けていくのか——。人の上に立つすべての方に役立つ学びが凝縮された一冊です。

以上